

中学歴史プリント（過去問類似）

鎌倉時代

名前

得点

/10

問1 歴史の学習カードに、鎌倉時代に中国の宋へ渡り、座禅によって悟りを開く教を日本に伝えた代表的な人物についてまとめられています。この二人の人物の組み合わせとして正しいものはどれか、次の中から選びなさい。（2023年 徳島公立入試 類似）

1. 栄西と道元 2. 最澄と空海 3. 法然と親鸞 4. 一遍と日蓮

問2 13世紀後半の中世日本において、モンゴル帝国（元）が二度にわたって日本に攻めてきた出来事と、その様子を描いた絵巻物の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2025年 北海道公立入試 類似）

1. 元寇と蒙古襲来絵詞 2. 倭寇と蒙古襲来絵詞 3. 元寇と倭寇図巻 4. 古代の変革と蒙古襲来絵詞

問3 鎌倉時代において、将軍と御家人の間には土地を媒介とした主従関係が築かれました。このうち、将軍が御家人のこれまでの領地を保証したり、手柄を立てた者に新たな領地を与えたりする行為を何と呼びますか。（2023年 群馬県公立入試 類似）

1. 御恩 2. 奉公 3. 寄進 4. 安堵

問4 鎌倉時代の文化の特徴である「平家物語」の普及について、当時の社会背景を踏まえた説明として正しいものはどれですか。

（2020年 大阪公立入試 類似）

1. 武士の台頭により戦いへの関心が高まる中、語り手によって劇的に語られる物語が庶民の共感を呼んだ。
2. 貴族が自らの特権を維持するために、平氏の成功体験を教訓として記録し、秘密裏に共有した。
3. 遣唐使によってもたらされた大陸の最新文学が、そのままの形で武士の間で流行した。
4. 印刷技術が飛躍的に向上したことで、大量の書籍が安価に販売され、農村部まで流通した。

問5 承久の乱の戦後処理において、鎌倉幕府が西日本への統制を強めるために、没収した土地へ派遣した「東日本の武士」に与えられた役職として正しいものはどれですか。（2018年 岡山公立入試 類似）

1. 地頭 2. 守護 3. 六波羅探題 4. 評定衆

問6 鎌倉時代に宋（中国）へ渡って禅を学び、帰国後に「只管打坐（しかんたざ）」と呼ばれる、ひたすら座禅に打ち込む修行を重視する宗派を開いた僧侶は誰ですか。（2019年 岡山公立入試 類似）

1. 最澄 2. 道元 3. 栄西 4. 空海

問7 鎌倉時代に栄西が宋から伝えた禅宗の一派は、当時の幕府や武士から厚い保護を受け、急速に広まりました。このように、禅宗が武士層に受け入れられた背景として、その教えや修行のあり方を説明したものとして最も適切なものを選んでください。

（2019年 群馬県公立入試 類似）

1. 座禅によって自己の精神を鍛錬し、悟りを開こうとする厳しい修行が、武士の気風に合致したため。
2. 「南無阿弥陀仏」という念仏を唱えるだけで救われるという簡潔な教えが、多忙な武士の生活に適していたため。
3. 踊りながら念仏を唱えることで集団の連帯感を高める形式が、戦場での団結に役立つと考えられたため。
4. 貴族社会とのつながりが深く、加持祈祷によって幕府の安泰や外敵の退散を祈る儀式が重視されたため。

問8 鎌倉新仏教の一つで、特定の姿勢で座り精神を統一する「座禅」を修行の根幹とし、鎌倉幕府の保護を受けて発展した宗派を次の中から選びなさい。（2017年 和歌山公立入試 類似）

1. 禅宗 2. 浄土宗 3. 日蓮宗 4. 浄土真宗

問9 鎌倉時代において、幕府が中国（宋）から僧を招くなどして奨励した禅宗が、当時の有力な武士たちに受け入れられた理由として最も適切な説明を選びなさい。（2026年 長野公立入試 類似）

1. 念仏を唱えるだけで救われるという平易な教えが、忙しい武士の生活に合っていたため。
2. 座禅による厳しい精神修養が、自己を律し生死に向き合う武士の生き方に適していたため。
3. 法華経の教えを広めることで、蒙古襲来などの国難を退けることができると考えたため。
4. 一向一揆などの強力な組織力を持つことで、幕府の軍事力を補強しようとしたため。

問10 鎌倉時代、将軍と武士の間には土地を媒介とした強い主従関係が結ばれていました。将軍が御家人の領地支配を認めたり、手柄に応じて新たな領地を与えたりする行為と、それに対して御家人が軍役や警備の義務を果たすことの組み合わせとして正しいものはどれですか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 御恩と奉公 2. 寄進と安堵 3. 守護と地頭 4. 執権と連署

答え合わせ・解説

問1	答え 1 柴西と道元	柴西は宋に渡って臨済宗を伝え、建仁寺を建立しました。一方、道元も宋で修行し、帰国後に曹洞宗を伝えて永平寺を開きました。この二人は、いずれも座禅を重視する教えを広めた中心人物として教科書等で併記されることが一般的です。
問2	答え 1 元寇と蒙古襲来絵詞	13世紀後半の鎌倉時代に、フビライ・ハン率いるモンゴル帝国が日本へ侵攻した出来事は「元寇（蒙古襲来）」と呼ばれます。この戦いに参加した武士の竹崎季長が、自身の功績を証明するために作成させた「蒙古襲来絵詞」には、元軍の船に乗り込んで戦う武士の姿などが詳細に描かれています。選択肢にある「倭寇」は、主に朝鮮半島や中国沿岸で活動した海賊集団を指すため区別が必要です。
問3	答え 1 御恩	鎌倉幕府の基盤は、将軍と御家人の間の土地を通じた契約関係にありました。将軍が御家人の領地を保証する「本領安堵（ほんりょうあんど）」や、戦功に対して新しい領地を与える「新恩給与（しんおんきゅうよ）」をまとめて「御恩」と呼びます。これに対し、御家人が軍役や京都・鎌倉の警備を行う義務を「奉公」と言い、この双方向の関係が幕府を支えました。
問4	答え 1 武士の台頭により戦いへの関心が高まる中、語り手によって劇的に語られる物語が庶民の共感を呼んだ。	鎌倉時代は政治の実権が貴族から武士へと移り変わった時期であり、文化も力強く、庶民的で写実的な傾向を強めました。平家物語は単なる平氏の記録ではなく、武士の生き様や戦いの虚しさを描き出しており、琵琶法師による弾き語りという形態をとることで、娯楽を求める庶民や地方の武士にも広く受け入れられる土壌がありました。
問5	答え 1 地頭	鎌倉幕府は承久の乱の後、没収した広大な土地の管理や年貢の徴収を行うため、多くの東日本の武士を「地頭」として西日本へ送り込みました。これにより、西日本の地域社会に幕府の勢力が深く入り込むことになりました。なお、京都の監視や朝廷との調整を担うために設置されたのは六波羅探題であり、土地に直接配置された役職とは区別が必要です。
問6	答え 2 道元	鎌倉時代には、武士の精神的支柱となる新しい仏教が次々と誕生しました。道元は宋での修行を経て日本に帰国し、越前（福井県）の永平寺を拠点に曹洞宗を広めました。同じ禅宗でも、公認の地位を求めた臨済宗とは異なり、道元は権力から距離を置き、純粹に座禅を行うことを説いたのが特徴です。
問7	答え 1 座禅によって自己の精神を鍛錬し、悟りを開こうとする厳しい修行が、武士の気風に合致したため。	禅宗の一派である臨済宗は、座禅による修行を通じて自らの力で悟りを得ようとする「自力」の教えを特徴としています。この精神統一や克己（己に打ち勝つ）の姿勢が、常に死と隣り合わせで厳しい規律を求める武士の生き方と親和性が高かったため、鎌倉幕府の有力者たちの支持を得て発展しました。
問8	答え 1 禅宗	座禅を組んで悟りを目指す禅宗には、柴西が伝えた臨済宗や、道元が伝えた曹洞宗などがあります。これらは念仏や題目を重視する他の宗派とは異なり、自分自身の内面を鍛える修行を重視しました。特に臨済宗は鎌倉幕府の執権らの支持を受け、後の室町文化にも大きな影響を与えました。
問9	答え 2 座禅による厳しい精神修養が、自己を律し生死に向き合う武士の生き方に適していたため。	禅宗は座禅によって自分の力（自力）で悟りを開くことを説きます。この自分自身を厳しく律する修行のあり方が、戦場での精神的な強さを求めていた武士階級の道徳観や価値観と深く結びつきました。鎌倉幕府の執権である北条時頼や北条時宗は、中国から蘭溪道隆や無学祖元といった高僧を招き、建長寺や円覚寺を建立して禅宗の普及を後押ししました。
問10	答え 1 御恩と奉公	武士にとって最も重要な財産である土地の所有権を将軍が保証することを「御恩」と呼び、それに応えるために御家人が幕府のために働くことを「奉公」と呼びます。この交換条件によって成り立つ主従関係が、鎌倉幕府の統治の基盤となりました。侍所や政所といった中央組織も、こうした御家人たちを統制・管理するために設けられています。